

もうすぐ21世紀です。高度情報化社会は着実に進展し、個人間で多種多様な情報が交換できるようになっています。一方、物流は従来のトラックと人力を中心として行われ、あまり変化がありません。

「パーソナル物流ネットワーク」の研究は、電話の感覚で、ガスや水道のように物を自由に個人間で送れる装置を目標としています。実現までには数十年かかると予想されますが、以下のメリットが考えられます。

★電話の感覚で手軽に物が送ることができ、人々の生活はより便利になります。

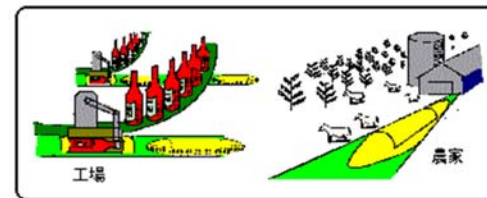
★生産者と消費者を直結させることができ、流通が合理化されます。

★輸送における積み換え、一時保管等の手間が省けます。

★必要な物を必要なだけ生産し、相互に融通できるので廃棄の無駄が省けます。

★貨物輸送を一部肩代わりできるので、交通渋滞の緩和が期待できます。

設備投資は大きくなりますが、今の自動車と同じように便利な機器になります。

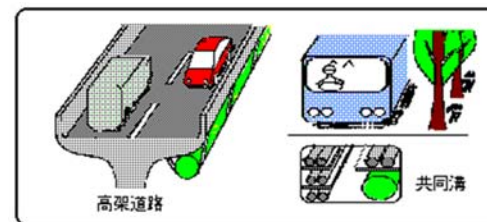


生産者からは、生産物が小型カプセルで発送されます。

発送は自動化され積み込等の手間がかかりません。

生産者は必要な物を必要なだけ生産し発送するため保存、廃棄等の無駄がなくなります。

生産者と消費者を直結でき、新鮮な物を流通させることができます。



カプセルの通路は高架式の道路や共同溝を考えています。カプセルを小型化、高速化することにより、小さな設備で大量の物を送れるようになり、設備等の工事費を節約できます。



家庭では、一つの電化製品のように使用できることを想定しています。当初は相当高価なものになりますが、今の車のように便利な機器になります。

---

Copyright (C) 1996 by Hiroshi YOSHINAGA

[戻る.](#)